

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
博多小学校の新たなスタート(30周年に向けて)と、日本一の学校への挑戦 <b>【めざす学校像】</b> 子ども・教師・保護者・地域の方の笑顔があふれ、楽しくてたまらない学校 <b>【めざす子ども像】</b> ハートフルな(こころ温かい)、かしこく、たくましく、地域に働きかけることができる『博多っ子』 <b>【めざす教師像】</b> 率先垂範・師弟同行、温かさとしがみがあり、切磋琢磨する教職員		学年主任を中心とした学年経営の充実と学年主任を支えるミドルリーダーの育成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年研修会や部会の内容を充実させ取組を明確にする。</li> <li>職員連絡会を活用して、様々な取組状況の把握と取組徹底を図る。</li> <li>学年主任研修における情報交換をもとに学年経営力の向上を図る。</li> <li>若年教諭研修による授業改善の視点を明確化する。</li> </ul>
		確かな学力を育成するための授業力の向上と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年研修や示範授業を活用して授業改善を図る。</li> <li>算数科の授業を参視し、算数科の授業力の向上を図る。</li> <li>学年間の交換授業や異学年の交換授業を積極的に取り入れるとともに柔軟な学習形態による指導を取り入れ授業力の向上を図る。</li> </ul>
		1小1中を生かした連携と保幼との連携の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な研修の設定や小中間の教師の交流を活発に行なう。また、出前授業等の実施による小中連携の充実。</li> <li>低学年教諭が定期的に校区の保・幼を訪問し連携を図る。</li> <li>年2回の保幼小連絡会を実施し更に連携を深める。</li> </ul>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
学年主任・部主任の育成	上学年の交換授業・下学年の学習形態の工夫 目標値 教科担任(1教科以上)形態工夫(1単元以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>上学年は積極的に交換授業を実施し、下学年は学習内容によって学習形態を工夫する取組を実施することができた。</li> <li>学年主任・若年教員研修の両方とも予定通り実施し、キャリアにあった内容の研修を進めることができた。</li> <li>3部会には管理職が分かれて参加し内容の充実を図れた。学年研修会は主幹教諭が中心となり全学年で同時に実施することで学年間の連携も図ることができた。</li> <li>重要な案件については適切に報告・連絡・相談が行なわれた。</li> </ul>	
	学年主任研修会・若年教師研修の設定 目標値 学年主任・若年教師研修会(月1回以上)		
めざす子ども像の実現に向けて子どもの育成	学年研修会・部会のルーティンの確立 目標値 全学年及びテーマ研究・人権教育・生徒指導部報告・連絡・相談の徹底 目標値 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年間の取り組み状況の違いはあるが1月下旬までに71%以上の児童が目標値を達成している。年度末まで取り組みを継続していく。</li> <li>号令時の腰骨立ては身につけているが、学習時における交流タイムの位置づけが学級によって十分ではなく、今後取組の改善が必要だと考える。</li> <li>歯ブラシの持参率はチェックにより定着した。年度当初の検診のため歯肉炎罹患者の減少まで繋がっていない。</li> <li>校内での挨拶は定着してきた。今後も校外での児童の様子を把握し指導を継続していく。</li> </ul>	
	読み聞かせ、読書タイムの充実 目標値 読書(年間 下学年100冊, 上学年50冊)		
	腰骨立てができる子ども 目標値 授業号令時100% 交流タイム90% 実態把握		
	虫歯0をめざして歯磨きをする子ども 目標値 歯磨き95% 歯肉炎罹患者50%減 実態把握		
家庭学習の内容の検討と家庭学習の習慣化に向けて	あいさつができる子ども 目標値 地域・保護者アンケートAB肯定評価80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の課題も考慮して博多ノートの内容を改善したこともあり、どの学年も効果的に活用することができている。</li> <li>定着期間はしっかり取り組めたがなかなか定着まで行かない児童もいる。今後も粘り強い取り組みが必要だと考える。</li> <li>参観時の資料に「アドバイス」を記したが参観に来ない家庭への取り組みが今後必要だと考える。</li> <li>家庭の協力で温度差があり、なかなか協力がいただけない家庭に対して今後どう支援していくか取り組みを検討する必要がある。</li> </ul>	
	家庭学習の内容の検討・実施 目標値 「博多ノート」の活用		
	家庭学習の習慣化への取り組み検討・実施 目標値 前・後期1回家庭学習100%キャンペーン実施		
	家庭学習フポイントによる啓蒙 目標値 授業参観資料の指導略案に記す		
	家庭での基本学習時間の設定(学年×10分+10分) 目標値 80%		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○地域行事が多く、忙しい先生方をはじめ、保護者、児童の参加、協力に感謝している。個人情報については、難しいところもあるが、サポーターや地域の役職に応じた協力をもっとお願いしたらよい。自分から挨拶をする子どもが増えてきているが、公民館に出入りする場合などで、挨拶が十分でない児童も見受けられる。いつでもどこでも挨拶ができる児童を目指して継続して指導に取り組んで欲しい。 ○学力について全国や市の標準・平均と比べて「努力を要する」があるのは、基礎学習ができていないのではないだろうか。学年が上がり、それ以上詰め込んでも砂上の楼閣ではと危惧している。 ○博多の地域や施設のことを調べる授業は児童も楽しいと思う。切り口や視点を変え気づきや喜びを更に身につけてほしい。			